

第4章 外国のあまんじゃく昔話②

次に中東のトルコに伝わる昔話を紹介します。臍曲^{へそ}がりな子どもが親を相手にいたずらをするもので、日本の『雨蛙不孝』や韓国の『チョンケグリとオンマ』と話の流れは似ているものの、湿っぽくなく、くすっと笑える昔話です。

◆ホジャのいたずら

“ホジャは子どものとき、ひどう臍曲^{へそ}がり^{ろば}で、父親が何か言い付けりゃ、その逆ばかりしておったんじゃ。

ある日、父子連れだって粉碾き場からの帰り道じゃったげな。小川にかかった橋を渡るとき、父親は、驢馬^{ろば}の背の粉袋が一つ、あんまり傾いているのに気づいたげな。今にも落ちそうじゃ。じゃが、モルラ・ナスレッディン⁽¹⁾に、「袋をもとへ押し上げな」とでも言おうもんなら、また例の臍曲^{へそ}がりが出るじゃろと思うたんで、「おいお前、袋は傾いちゃいないぞ。そいつをもう一つグッと押せい」。

悪太郎のナスレッディンは、「お父っつあん。この歳までお父っつあんの言うこたあ、何でもその逆ばかりしてきたけど、こんだあ言う通りするぜっ」と言うたかと思うと、袋をグイと押し、川の中へ転ばしてしもうたげな。“

(1)はじめは、大法官・大学者を意味したが、のちには、メドレセでまなぶ学生、読みかきのできる人をさすようになった。

(護 雅夫訳.(1971年).『ナスレッディン・ホジャ物語—トルコの知恵ばなし—ホジャのいたずら』. 平凡社.99頁より引用)



【解説・コメント】

1 トルコのナスレッディン・ホジャという人物にまつわる滑稽・とんち話などを集めた『ナスレッディン・ホジャ物語』の中の話です。この人物は、日本でいえば一休禅師に当たるでしょう。

『ナスレッディン・ホジャ物語』は、トルコだけでなく、かつてのオスマントルコ帝国支配領域（例：アゼルバイジャン、コーカサス、クリミア、ヴォルガ河流域、トルキスタン、トルコマン・キルギス高原、ルーマニア、ブルガリア、アルバニア、ユーゴスラヴィア、アルメニア）の人々によって語り伝え、言い継がれてきました。単にトルコ人、イスラム世界の文化遺産であるのみでなく、広く全世界の共有財産になっているといわれています。⁽¹⁾

2 この話には、父親に逆らってばかりのホジャという男の子が登場します。父親は、ホジャと連れ立って、小麦粉でしょうか、粉^{こな}碾^ひき場からの帰路、橋を渡るときに、驢^ろ馬^ばの背の粉袋が落ちそうになっているのに気づきます。

本当は「押し上げろ」と言いたいのですが、子どもの臍^{へし}曲^まがりぶりを知っているので、逆に「押しせ」と言います。子どもは、「何でも逆ばかりしてきたけど、今度は父さんの言うとおりにしよう」と言って、袋をグイと押し、川の中へ転がしてしまうというお話です。

3 大きな筋立ては、佐伯区の『あまんじゃく伝説』や『雨蛙不孝』と似ていますが、いたずら好きのホジャは、父親の言うことに従う姿勢を見せて、わざと粉袋を川に落とします。ホジャのにんまりと笑う顔が想像できます。

粉碾^{こな}き場からの帰り道と親の死に目という場面の違い、また、失われる物が粉袋と墓とという違いがありますが、『雨蛙不孝』などに見られる、悲しく湿っぽい、また、道徳的・教訓的なところはうかがわれず、くすっと笑える話になっています。

4 この両者のトーンの違いはどこから来たのでしょうか。日本は温暖で多雨の気候、一方、トルコは総じて日本よりも降水量は少なく、乾燥しています（地域によってステップ気候、地中海性気候、海洋性気候などさまざまですが。）。気候・風土の影響、さらに、親孝行を大事な徳目とする儒教の伝播があったかどうかの影響かなと想像しますが、皆さんはどう思われますか。

(1)護 雅夫訳.(1971年).『ナスレッディン・ホジャ物語—トルコの知恵ばなし—ホジャのいたずら』. 平凡社. 1頁